

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語	「話すこと・聞くこと」に関する問題の正答率が高い傾向にあり、無回答もほとんどなかった。 「読むこと」・「書くこと」に関する問題に課題がある。
算数	領域別では「図形」と「変化と関係」に関する問題の正答率が高く、「データの活用」に関する問題に課題がある。 観点別では、「知識・技能」に関する問題は正答率が高く、「思考・判断・表現」に関する問題に課題がある。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
・将来の夢や目標をもっていると考えた児童は全国に比べても高い数値にある。 ・ICTの活用に関して、本校では全国に比べて使用頻度も高く、有効性を感じている児童が多いことがわかった。 ・友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができていると考えた児童は90%でありながら、自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができると考えた児童は約60%であった。自分の思いを言葉で発したり、文字で表す活動に力を入れる必要がある。 ・自分には、よいところがあると思っている児童は約45%で自己肯定感が低い傾向にあることが分かった。 ・難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していると答えた児童は約45%で、自分と違う意見について考えるのは楽しいと思うと考えた児童は約55%であった。どちらも全国と比べるとかなり低いことがわかった。他者と違う意見や立場になることに不安を感じる児童が多い傾向にあるといえる。 ・1日あたりの読書時間は全国よりもかなり低いことが分かった。読書嫌い・読書離れが国語の「読むこと」に関する問題への正答率に影響していると考えられる。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

授業の中に「話し合う活動」と「書く活動」を位置付け、自分の思いをしっかりと表すことができるようにする。
朝自習の時間に読書や新聞を活用した問題、コグトレを使った認知トレーニングなどに取り組む。
継続してICT機器を活用し、情報活用能力を養う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

「赤崎スタンダード」等を用いて、家庭学習の内容や時間等を引き続き家庭に啓発していく。
全国学力・学習状況調査、GRTの課題と取組を保護者へ周知する。(学校だより・ホームページ)
中学校区で授業参観・情報交換・生徒指導状の諸問題の共有を行い、課題解決の方法を共に探る研修会を実施する。